

ヴェルツブルクのシーボルト館訪問

情報サービス課長 片山 淳

ドイツに行く機会があったのでヴェルツブルクのシーボルト館を訪ねてみた。

ドーム（大聖堂）近くの三ツ星ホテルからシーボルト記念館へは2番か4番の路面電車でおおよそ5つほど先のシーボルト館駅で降りればよいとのことであった。Alt Mainz Brücke（古マインツ橋）を渡れば、マリエンブルク要塞の上り口に辿りつけ、その道からだて歩いて行けそうだったので、路面電車には帰りに乗ることとし、歩いて出かけた。約40分歩いてシーボルト館駅に到着。電車でこの駅につくと日本語のアナウンスがあるそうだ、「シーボルト館前です」とでも言うのだろうか。帰りに乗ったがその時は到着の後だからアナウンスはなかった。

道路に面した一面に門があり表札がかかっていた（写真）。敷地内には西洋栗の実が結実してたくさん落ちていた。日本の栗との違いは、先ず色が少し青っぽい色だったのと、とげの鋭さは日本のものがきつく、丸みは西洋のほうが大きいこと。敷地内には他に会社や倉庫のようなものがあった。



シーボルト館の全容（写真）。地下一階、地上三階で床面積は20メートル×20メートル程度の広さ。玄関は少し高くなっていて、地下といっても玄関の位置から言っていること。入口で呼び鈴を押すとしばらくしてドアを開けてくれた。入館する。アポを取っていた館長との面会はお客さんがあったらしく、しばらく展示品を見ていて欲しいとのこと。メインフロアの展示を見学。家系図、シーボルトの肖像画や銅像、医療器具、などなど。



しばらくしてクライン・ラングナー館長が現れたので、握手して挨拶を交わした。話をしながら、展示品の案内をしてくれ、3階の研究エリアに案内され、机に座って歓談する。

話中で、ヨーロッパでしか販売しなかったという1967年刊行の資料（1）を紹介され、シーボルト研究資料としては呉秀三の「シーボルト先生」（1926）に並ぶものだと説明された。この10月16日には松山から「みかん一座」が来てシーボルトの娘「INE」という演劇が上演される予定だとのことや、「NIPPON」はここには第2版しかないこと、長崎にあるシーボ

ルト記念館のこと、シーボルトのピアノのこと、シーボルトの生家や子孫のこと、などなどが話題となった。こちらからは、シーボルトの音楽のこと、展示会のことなどについて話をした。九州大学の展示会開催に当たって、来観者への言葉を書いてくれますかという、10月16日の演劇が終わったら時間ができるので考えましようと言ってくれた。

1階にはシーボルト関係の展示、2階には「足絵から浮世絵へ」というタイトルの企画展示が開催されていた。3階が理事長室と資料室、そしてヴェルツブルクの友好都市、滋賀県大津市と長崎県長崎市との友好記念写真が掲げられた部屋がそれぞれ用意されていた。お客さんが来た時に案内できるように用意してあるのだろう。地階には、日本の茶室が作られていて、お茶が立てられるように工夫されていた。15時から30分の約束であったが、案内が終わり、館を出て時計を見ると16時30分だった。ずいぶん時間を割いてくれたようだ。はるばる日本から行っただけのことはあった。

(入手できた資料)

1. Die Würzburger Siebold : eine Gelehrtenfamilie des 18. und 19. Jahrhunderts / von Hans Korner. J.A. Barth, 1967. (Lebensdarstellungen deutscher Naturforscher ; Nr. 13)
2. Philipp Franz von Siebold : der wissenschaftliche Entdecker Japans aus Würzburg 1796-1866 / Hans Schneider. Siebold Gesellschaft e. V., Siebold Palais. English-Japanese. 31,45 plates, 25p.
3. Siebold Palais. Siebold Gesellschaft. 15p.
4. パンプ (演劇「INE」、最上徳内記念館 (英語版)、フランケンワインのラベル

(かたやま じゅん 情報サービス課長)